

2018年3月5日

### 朝礼の話 (2018年3月)

皆さんお早うございます。先週木曜日（1日）から翌日にかけて日本列島は日本海で発達した強い低気圧の影響で春のあらしが吹き荒れました。昨日、今日とは日中の最高気温が20℃近い4月中旬並みの気候となっていますが、明日以降気温はぐっと下がり平年の気候に戻る予報となっています。先週土曜日（3日）が桃の節句（ひな祭り）、明日（6日）が二十四節気の啓蟄、来週月曜日（12日）が奈良東大寺二月堂のお水取り、18日が彼岸の入り、21日が春分の日となります。毎年のことではありますが、一気に春本番がやってきます。当分寒暖の差が激しい気候が続きます。気温が高まるとちょっと気も緩みがちになります。体調管理には一段と注意するよう心掛けてください。

先月9日から25日まで17日間、韓国・平昌で第23回冬季オリンピック大会が開催されました。開会直前になり、北朝鮮の参加が特例で認められ、アイスホッケー女子で南北合同チームが結成されるなど南北融和ムードが演出された大会となりました。日本国内での開会以前の盛り上がりも今ひとつでありましたが、事前予想を超える日本選手の活躍で、全国各地のファンも熱い声援を送り続けました。日本選手団は、金4個、銀5個、銅4個、合計13個のメダルを獲得し、冬季大会の過去最多の記録を更新しました。昨年11月の公式練習中、右足靭帯損傷の重傷を負いながら、気迫の演技で2大会連覇を成し遂げたフィギュアスケート男子の羽生結弦選手、W杯で連勝を重ね日本チームのエースとしての期待に見事応え、日本女子として初めて500メートルで金メダルを獲得したスピードスケート女子の小平奈緒選手、見事なチームワークを発揮し金メダルを獲得した女子団体パシュートの高木姉妹など日本チーム、新種目のマススタート決勝で二つ目の金メダルを獲得した高木菜那選手、目の前まで金メダルの可能性がありながら、米国の絶対王者ショーン・ホワイト選手に劇的逆転を喫し、2大会連続の銀メダルとなったスノーボード男子ハーフパイプの平野歩夢選手、大会直前に負った肋骨骨折を公表せず、ノーマルヒルでは今一步で金メダルに届かなかったが2大会連続の銀メダルを獲得したノルディックスキ複合個人男子の渡部暁斗選手、金メダルは取れなかったが会心の跳躍で前回ソチ大会で逃した表彰台にたったスキージャンプ女子銅メダルの高梨沙羅選手、絶やさぬ笑顔で茶の間のファンを魅了し、三位決定戦で強豪英国から劇的な勝利を奪い取ったカーリング女子のLS北見チームなど数々の激闘と感動の場面がありました。数ある名場面の中で最も印象に残った場面の一つがスピードスケート女子500メートルで小平奈緒選手と二位の李相花（イ・サンファ）選手が競技を終えてリンクを抱き合って回ったシーンでありました。トップを争うライバルではありましたが、試合の終わった後はお互いの健闘をたたえ合いました。二人のライバル同士の振る舞いは韓国の人々にも多くの感動を呼び二人への讃辞が止みませんでした。スケートを極めたいというあくなき向上心、支えてくれた人たちに対する感謝の表現とともにライバルに対する尊敬の念と思いやりなど小平選手の素晴らしい姿や言動は、スポーツ選手のみならず、人として大事な生き方を世界の人々に見せてくれたといえます。以上